

神河町 中村・粟賀町 ふるさと自立計画

■中村・粟賀町の“お宝”

- <歴史・まちなみ>
- ・銀の馬車道がまちの中心部を通っている(ユネスコの未来遺産に登録)。銀の馬車道交流館がある。
 - ・歴史ある建物(神社仏閣、道標等)が多い。
 - ・古民家(代表的な難波邸、竹内邸、その他多数)、歴史的な町並みがある。
- <地域文化>
- ・祭りなど、多くの年中行事が行われ、引き継がれている。
- <自然>
- ・越知川、ホテル、バイクモ、周辺の山々、田畑など、自然が豊かである。
- <農産品・食文化>
- ・米、野菜、越知川名水、お茶(仙露茶)など、おいしいものがある。
- <施設>
- ・総合病院である神崎病院が地域内にある。
 - ・商業施設が身近にある。
- <人>
- ・地域活動がさかんに行われている。

■中村・粟賀町の“課題”

- <少子・高齢化>
- ・高齢化が進行しており、将来が心配。
 - ・子供が少なくなった。
- <若者の減少>
- ・若い人が外へ出ていく。魅力的な働く場所が少ない。
- <農業者・後継者不足>
- ・農業、商売の後継者不足。
- <まちの人の通りの減少>
- ・店舗が減少し、その結果として人通りが少なくなった。
- <特産品>
- ・地域を代表する特産品が少ない。
- <まちなみ>
- ・空き家・空き地が増加し、今後の景観維持が課題。
 - ・建物の老朽化。

■まちづくりのテーマ

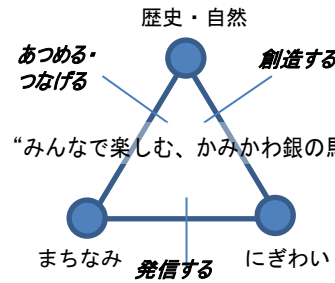
- ・豊富な歴史資源や古民家・まちなみが当地域の特徴で、まちづくりにどう生かしていくか。
- ・当地区周辺も含めて自然からの恵みが豊富で、“食”をまちづくりにどう生かしていくか。
- ・まちなみにぎわいをもっともたらすために、新旧のイベントをどう企画していくか。

◇この間の取り組み

- 2013年
- ・3~5月/兵庫県助成事業「ふるさと自立計画推進モデル事業」申請準備、関係者協議。
 - ・7月18日/第1回ワークショップ「中村・粟賀町の“お宝”と“課題”」
 - ・8月6日/関係者打ち合わせ
 - ・8月下旬/「中村・粟賀町ふるさとまちづくり」創刊号発行
 - ・9月8日/第2回ワークショップ「中村・粟賀町のまち歩き」
 - ・9月20日/関係者打ち合わせ
 - ・10月16日/第3回ワークショップ「“お宝”を生かし、“課題”の解決方法について、アイデアを出そう！」
 - ・11月19日/第4回ワークショップ「『まちづくりプロジェクト』について話し合おう！」
 - ・12月11日/関係者打ち合わせ
- 2014年
- ・1月16日/第5回ワークショップ「ふるさと自立計画をつくろう！」
 - ・2月23日/先進地視察・竹野浜地域(豊岡市竹野町)
 - ・3月6日/第6回ワークショップ「中村・粟賀町ふるさと自立計画」を決めよう



■まちづくりの理念



◇中村・粟賀町のまちづくりのキャッチフレーズ
“みんなで楽しむ、かみかわ銀の馬車道”

◇まちづくりの基本方針

- ・歴史資源や自然が豊かな地域の特徴を生かすまちづくり。
 - ・かつての銀の馬車道沿いに形成されたまちなみを保全し、生かすまちづくり。
- 祭りやイベントなどで、にぎわいのある楽しいまちづくり。

★様々な資源を集め、ネットワーク化するとともに、新たな取り組みや特産品などを創り出し、地域内外への発信

■まちづくりプロジェクト

<歴史文化・自然>

- R1 中村・粟賀町ぶらぶらマップづくりプロジェクト
- R2 歴史遺産・名所を知り、知らせよう！プロジェクト(解説書、解説・案内看板作製等)
- R3 歴史ある中村・粟賀町のPRプロジェクト
- R4 自然の保全・回復・活用プロジェクト

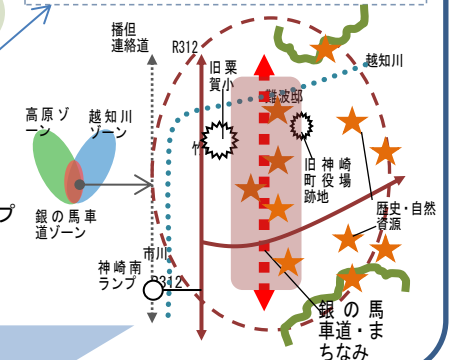
<まちなみ>

- M1 拠点となる古民家(難波邸、竹内邸)の再生・活用で風格あるまちづくりプロジェクト
- M2 空き家の“活用→再生”プロジェクト
- M3 街道筋の景観づくりプロジェクト

<にぎわい>

- N1 銀の馬車道まつり(まっせまつり復活)プロジェクト
- N2 古民家でなつかしい、和みのイベントプロジェクト
- N3 伝統的まつりの盛り上げプロジェクト
- N4 中村・粟賀町(あるいは神河)独特の特産品開発プロジェクト
- N5 空き地の有効活用プロジェクト

これらのプロジェクトについて、A、町並み・古民家チーム、歴史・PRチーム C、イベント・特産品チーム、D、粟賀小跡地(十旧神崎庁舎跡地)活用チーム、E、広報チームを編成し、
①すぐにでもできる有効なプロジェクト、②周辺の集落を巻き込んだ、中心街らしいプロジェクト
③大がかりで重要なプロジェクト
に仕分けして、複合的(時間的、場所的)なプロジェクト構成とする。(→具体的な取り組み内容は、第



■まちづくりの進め方

- ・地元住民(中村区、粟賀町区)、商業者等が中心となり、行政(神河町、県)、専門家等が支援し、周辺地域と連携しながら進める。町内外の支援者、ボランティア等も募り、広がりを持った活性化の取り組みを進める。

